

局長

總務部長

總務課長

庶務課長



十月二十一日



自昭和二十一年七月十九日  
至昭和二十一年十月二十七日

# 行動報告

(壺盧島復員輸送)

① 瀋陽五身店方面北地等物記載

## 特別輸送艦巨濟

37

巨濟艦隊... 運送... 其他... 報告...

0369

自己多用此古本由八道徳ノ事  
其移る物は及快意其命  
收大ノ了

0370

横須賀地方復員局長殿

巨濟米十號ノ四

十月二十八日報告

自昭和二十一年七月十九日  
至同十月十七日

行動報告 (壱盧島復員輸送)

特別輸送船「巨濟」

一 行動經過概要

年月日 經過概要 記事

二一・七・一九 壱盧島に向け佐世保發

(壱盧島米一欠行動)

二二・七・〇〇 濃霧のため小東高角南方に假泊

一一・二・〇 壱盧島に向け假泊地発

一五・〇 横城故障假泊地に引返す

二四・一・〇 假泊地発

二五・一・〇 壱盧島着

二七・一・三〇 壱盧島復員輸送清水補給(六ト)終了

海軍

(福岡機)

0371

		一番岸壁に横付	
三〇六	米軍の命により泰皇島に向き豊原島發	便乗者	米陸軍少佐ウヅアン
一六五	泰皇島發着ニ番岸壁に横付		
三二〇	一五 豊原島に回リ泰皇島發		
一七〇	豊原島着ニ番岸壁に横付		
八二	一八九 便乗者乗船終つて五番岸壁に横付	便乗者四澤	長春米軍六隊隊長林
二〇五	五五 清水補給 (二〇トン)	中隊	二一〇名
〇八〇	博多に向き豊原島發	(男)	七六名
五〇八	博多着	(女)	一七名
八	燃料補給 (忌薬丸より)	補給量	D五〇バレル
一〇〇	八〇 便乗者退船		
	在泊中 清水搭載 (計五〇トン)		
一六〇	豊原島に向き博多發		

海軍

(福岡納)

0372

		(重慶島着二次行動)
	一五〇三〇 重慶島着	
	一六〇八〇〇 七番岸壁に横付け	
	一六一六〇 便乗者未離陸して重慶島に清水lackを感ずる	便乗者の譯
	なめ 4500より清水供給(20トン)	新山隊員九隊中隊
	一八〇七〇 博多に切り重慶島発	二八八名
	二五〇〇 南九州に発生する颱風を避けるための足栗西方に撤泊	(男八名)
	二二一〇〇 撤泊地発	
	一五〇九四五 博多着	
	二七〇八五〇 便乗者退艦	
	後思案丸の重油には南濃入しより使用不能なるためは世保回航を申請せしむ預合のく持機	

海軍

(編 附 納)

0373

九 五	大邦丸より重油補給	補給量〇二五〇バレル
	在油中 清水搭載(計八セトン)	
六 一 六 〇	出港の予定なりし處 艦長保坂博 聯合軍の命により一復に出頭を命ぜられざるを以て出港延期	
七 一 六 〇	東蘆島に向け博多を(東蘆島第五次行動)	艦長 保坂博 金澤 繁次
一 〇 一 二 〇	東蘆島着	
一 三 〇 九 〇	七番舟楫に横付 清水補給(二〇トン)	
一 六 三	使東者 船博多に向け 東蘆島発	使東者の譯 船博多 六人 船博多 五名 船博多 五名
一 六 〇 八 三	博多着	一五〇名
一 三 〇	艦長 保坂博 事務引継	(男) 八八名 (女) 八八名
二 一 〇 八 〇	使東者 運継	

海軍

(福岡期)

0374

一九	燃料補給	補給量〇二五〇リットル
二二	在油中 清水塔載 (計七〇トン)	
二六	二六〇〇 豊原島に向り博多發 (豊原島第四回行動)	
二九	二六一六四五 豊原島着	本艦隊以二週年記す
	二九〇八〇〇 一番岸壁に碇付 清水補給 (二五〇トン)	
	四岸壁に横付けの際 W.T. 乗来の風と右舷尾方向 に波り、折柄満潮のため埋没しありし木定成突塊 に接し、舷衝左舷推進器に若干の損傷を覺く	
	一六〇〇 便乗者兼艦博多に向り豊原島発	便乗者の詳
	一〇・二二 三〇〇 博多着	長春榮二八八四號を以て公認 五〇七名
	四二一〇〇 本艦東廻り内山と暮男九月二十一日死去せる により特別式執行	(相) 一〇〇名 五〇名 ( )

海軍

(編四時)

0375

	一〇〇八〇〇 便束者退社			
	燃料補給		補給量〇二八〇リットル	
一二〇九〇	湾外に出動自差修正			
五九	機関修理(右舷六番発動シリンダボルト脱落)			
	清水塔載(計一二七トン)			
一四一六〇〇	壹履島に向リ博多発 (壹履島第五次行動)			
一七一七二〇	壹履島着			
一九〇九〇	一番岸壁に横付清水補給(一五トン)			
一六〇〇	便束者未離博多に向リ壹履島発	便束者退社		
二二一五二五	博多着 清水塔載(二二〇トン)	元房店第四大隊第十一中隊 二〇八五		
二七〇八〇	便束者退社	(英) 一〇七八 一〇七六 一〇七五 一〇七四 一〇七三 一〇七二 一〇七一 一〇七〇 一〇六九 一〇六八 一〇六七 一〇六六 一〇六五 一〇六四 一〇六三 一〇六二 一〇六一 一〇六〇 一〇五九 一〇五八 一〇五七 一〇五六 一〇五五 一〇五四 一〇五三 一〇五二 一〇五一 一〇五〇 一〇四九 一〇四八 一〇四七 一〇四六 一〇四五 一〇四四 一〇四三 一〇四二 一〇四一 一〇四〇 一〇三九 一〇三八 一〇三七 一〇三六 一〇三五 一〇三四 一〇三三 一〇三二 一〇三一 一〇三〇 一〇二九 一〇二八 一〇二七 一〇二六 一〇二五 一〇二四 一〇二三 一〇二二 一〇二一 一〇二〇 一〇一九 一〇一八 一〇一七 一〇一六 一〇一五 一〇一四 一〇一三 一〇一二 一〇一一 一〇一〇 一〇〇九 一〇〇八 一〇〇七 一〇〇六 一〇〇五 一〇〇四 一〇〇三 一〇〇二 一〇〇一 一〇〇〇		

海軍

(編四時)

0376



		(附表)									番号		
		第一次	第二次	第三次	第四次	第五次	第六次	第七次	第八次	第九次	(年月日)		
海軍	基地	特別輸送被巨済行動摘録	特別輸送被巨済結成	モートロック島復員輸送	ヤツブ島	パラオ島	上海第五次復員輸送	上海第四次	上海第三次	上海第二次	上海第一次復員輸送	待機	昭和三十二年九月二十六日
		事	記	リ	リ	リ	リ	リ	リ	リ	リ	リ	昭和三十二年十月十三日
		リ	リ	リ	リ	リ	リ	リ	リ	リ	リ	リ	昭和三十二年十月八日
		リ	リ	リ	リ	リ	リ	リ	リ	リ	リ	リ	昭和三十二年十月一日
		リ	リ	リ	リ	リ	リ	リ	リ	リ	リ	リ	昭和三十二年十月一日
		リ	リ	リ	リ	リ	リ	リ	リ	リ	リ	リ	昭和三十二年十月一日
		リ	リ	リ	リ	リ	リ	リ	リ	リ	リ	リ	昭和三十二年十月一日
		リ	リ	リ	リ	リ	リ	リ	リ	リ	リ	リ	昭和三十二年十月一日
		リ	リ	リ	リ	リ	リ	リ	リ	リ	リ	リ	昭和三十二年十月一日
浦賀	浦賀	浦賀	浦賀	浦賀	浦賀	浦賀	浦賀	浦賀	浦賀	浦賀	浦賀	昭和三十二年九月二十六日	
三三〇	三五〇	八一五	五六五	四七六	三七四	三四五	五五〇	三五〇	五三六	五三六	五三六	昭和三十二年九月二十六日	

(編同約)

0377

海軍

選送人員合計 五九三四名

第十次	第十一次	第十二次	第十三次	第十四次	第十五次	第十六次
至自	至自	至自	至自	至自	至自	至自
七月十五日	七月十九日	七月三十日	七月三十一日	八月十二日	八月二十七日	十月十四日 十月二十六日
米軍任務に從事	壱處島第一次復員輸送	米軍任務に從事(壱處島)	壱處島第三次復員輸送	"	第四次	第五次
渡世保	徳島	壱處島	博多	"	"	"
三一〇	三一〇	二八八	二八八	二五〇	三〇七	三〇八

(編制表)

0378

二、現地の状況

中央軍管下（長春鞍山地区等）の状況は他報所報の通り別に附加する要を認めないが省略する

瓦房店からの引揚は中央軍管下よりの最初のものであるから此の状況を知ることはよって他の地域の邦人の動静と推察するに好い資料であると思惟する。仍て引揚者から聴取した事項中特異なる英即ち民主聯盟に関する事項も重要として報告する

（一）終戦より引揚までワ房店附近の状況

ソ軍が瓦房店に侵入したのは八月二十三日頃で先づ目撃したのは日本油蔵を襲撃して居た原田商會で大部の油を押収し同時に大なる工場施設機械器具在庫品等も當時一日十五六列車であった満鉄の全能力を挙げて南送し殆んど目撃し物は撤去し益々次で個人的な掠奪に移った。その軍隊の素質掠奪のやり口は新京奉天地区と変るが、向もるくソ軍憲兵が警備は未だが佐官級の者

海軍

（編者）

數十數名の兵を連れて掠奪するに変わつては全く手がつかず又兵の行ふ所は強盜  
 と同様の手段で有名無実であつた尚女の被害は聞いた範圍では奉天に半より  
 は少なかつた模様である然しこれは以前の商賣女を提携したのと一部開拓團等  
 の困窮者が生活のため止むを得ずソソ聯兵の要求に應じたのとは異なるものであらう  
 被害の状況を調査したところによると巨済の便乗者も八名の七世帯中  
 は七世帯で掠奪回数は一七二平均一七世帯三回の被害で中には二十回に及んでゐる  
 世帯もある尚女の被害は一人而も一回とあるが開拓團等の者で商賣にしろは  
 若干あるやうな噂があるが論此の回数は一七二聯のみでなく中共軍、満人等  
 のものも含んでゐる。

中共軍は九月十日頃瓦房店に侵入して日本人の財産を没収し始め十月頃鉄道四  
 側居住(西側は会社官廳、商業の者、満人と雜居し東側は滿鉄関係の居住地  
 の日本人を鉄道東側約四料の日滿漁網、葉煙草、日滿客員、土場等の所在地  
 附近に移住を強制したため高い馬車賃や移動中農民のたりの掠奪によつて

海軍

0380

概ね三割平均の財産を失った此の勝る強制移住は局部的に辱し行はれ其の度毎に相當の犠牲を併せてある中共軍による迫害は日本人のみならず支那人の会社豪商にも及び嘗て日本と提携して一般民衆を圧迫せし廉が莫大の罰金を要求しむしろ日本人以上の辛刺が加つた此れがたゞ支那日本の有産階級が大連方面に難しむ者が多い又瓦房店附近は警察軍関係の拘引は比較的少く一部八路軍に身を投じて日本人の援護に努めたりある者も少くなく、尚八路軍は日滿経営による工場と採取して縣政府直営とし又本年一月頃中興軍が来ることを豫想して満州「マドリ」に満洲徳和紡績原田商會并「ソ」軍の撤退しに残りの主要な施設を悉く安東方面に撤出し去つた。

また本年八月初問題の日本民主聯盟が約六十名安東より瓦房店に集りたが來た此等の者の経歴はまことして延安で岡野進の教育を受けた者とその幹部級は以前共產黨員が日本を離れた者であるところでは社會運動と爲し得ざる程度の低級なものも相當あるらしい、當時瓦房店の一般邦人は日本八路軍一

来ると稱して非常に恐れたのであるが民主聯盟と稱して米國式民主主義を標榜  
 しなが勿論實質は共產主義であつた。先づ一般大衆の歡心を買ふ目的が  
 座談会や御機嫌取りの大衆運動や運動資金獲得(最初は十万円程度)に未  
 出し八路軍も之を援助した。その後日本人の越冬準備反動分子(共產黨はサイ  
 ンとる者)は衆く反動分子と見做した。反有産階級の摘発。香田内閣打倒等  
 「スローガン」を掲げて積極運動は果した。此の運動が實に悪劇が丸房店在位日  
 本人と八路軍よりも支那人よりも嫌悪し且つ恐怖に陥れた。そのやりに例として  
 の清算運動は八月中旬から開始され反動分子特に始めは社會的地位ある有産  
 階級や評判の芳しい者(多くは配給関係の仕事をしてゐた)を遂に獲り  
 財産を没収した後聯盟に招致し自己清算を要求する。浮浪人や開拓團等  
 の生活困窮者を利用して事實無根の罪状と捏造し大衆裁判に訴へ一人  
 ても賞金の野次を懸せば大部分反對でも之を民衆の聲として起訴する  
 而して若し辯護もしようものなら反動分子と身做マれるから誰も口を張して

(編者納)

海軍

物リやうとしん、中に見兼ねて正當な辯護をせらうとする者がある。奉銃を  
 擬して戦うの背後には三百方の八路あり」と脅迫する。様にして有産者は民主聯  
 盟に引出されて自己清算を強要せしむるに應ずれば新聞等が稱賛し民主聯盟  
 に對する反感と掩ふやうにしてゐる當時之が要求せる金額は二百万円程度であつた  
 が實際獲得したのは百万円内外であらう。そしてその使用目的は戦災者の慰養と遺  
 引揚者の後援費及聯盟の運動費等と稱してゐる。此の外引揚者の残る財産  
 (引揚に方て持参歸り金を平均した残りとも含む)を採取したのは言ふまでもない。  
 として東京市引揚者に共へた援護は瓦房店五千名中二千五十名に過ぎない。  
 瓦房店引揚者の幹部は他地区のやうな人望ある者を選出したのである。徳和紡績  
 や聯盟から共産主義の教育を受けた若い者が多く、元々は全然少くも人の世話等  
 は容易で而も共産地区からの引揚であるから民主聯盟に關係ある者が選挙便利で  
 あらうとの事へから、一般人は反感を抱いてゐるが承認した。一例を挙げれば巨港使  
 米の某小隊長は徳和紡績に勤め、給料も他の三倍近く貰ひ生活に困るゐる。

(福岡朝)

海軍

0383



米穀に方つて聯盟から困窮者として三千内程の補助を受け引揚途中贅沢三味  
 旅と反感を買つてゐる又引揚途中の糶賃として金と多額に強制的に出  
 させ物資の調弄に方つて不法なことをし不服を唱へる者があると攻めさせる  
 と稱して重慶島まで来た者があるらしい、大石橋以南中共地区の邦人が民主  
 聯盟の脅威下に只管引揚を待ちつゝある状況の概要は以上の様である尚此の  
 民主聯盟が中央軍占領下では絶対に容れらるゝことは周知の通りである

(二) 現地治安の状況

前項の通り八路軍は日本人を個人的には圧迫するが満人の對日感情も遂次  
 好転し中には此等之を庇護を受けた者もあるやうな状態があるこれは八路軍の  
 政策に彈圧を以てし満洲國當時を証歌する傾向  
 であるやうである現治安といふよりも生活の脅威をなすものは民主聯盟と共産  
 國時代と知らない支那の青少年日本人に對する悪感情とがあらうこれと  
 民主聯盟の本據である安東地区に比較すれば樂であらうと言つてゐる



(三) 食糧事情

食糧は一般に豊富で栄養も概して良好であったが、民主同盟は日本人は米食を許さず引揚前は大部分高粱を主食とし一部栄養失調の者が生じた。大連地区が食糧難ではあるが、鉄道輸送が利かぬため食料品の騰貴が緩和され終戦当時一斤四・五円の米が引揚前七・十円程度に又一斤十五・六円の豚肉が百円程となった。

(四) 健康状態

他地よりは極一部の者は良好であるが、大部分の者は栄養失調等により良くない。然し瓦房店地区は一般に良好で大差を認めない。病人は終戦前の二倍程度で、其の原因は栄養不足と薬物を掠奪されたの(にあらう)残留者は現在健康者許りである。婦人病も一部商賣女も除き殆んどない。なることである。

(五) 傳染病

発疹チフスは瓦房店地区には無く「コレラ」も八月下旬予防接種よりハル山奉天附近に比して少かつた。ペストも赤痢の発生も見なかつた。

(六) 引揚民の所持品

本艦便乗者の内地持参品は比較的少く着物は平均すれば夏冬各一着程度、所持金も一人平均七百四十円で一世帯に五百円未満の者が十四其の中無一文の世帯が八ある。

(七) 主要都市の滞留人員数と其の状況

瓦房店 四月頃着渡婦として日籍より獨身の女と八路军軍に差出したが難民に使用し目下の所ではそれ以外何も要求してゐない事は確實である尚出発は方り始めは十八才以上三十五才以下の獨身男女を以て十七才以上四十才以下は拡大して民主聯盟の手で約千名が殘留せしめらるる之等は男は共産主義の教育に女は看護婦に使用すると稱してゐるが戦争状態に入れば女は慰安婦に男は民主聯盟が八路军に入ルといふ言明してゐるが故に道の例から見ても參戰せしめることは明瞭であらう。

吹巻袋には殘留者家族を併して約百五十名が中央軍管下に苦しいがゐる。

蓋平縣にも約百五十名関東州獅子河に八路軍第七後方病院の看護婦として  
百七、八十名残留してゐる。

大連方面の状況は明らかでないが毎日三百名程の日本人が餓死してゐるにも拘らず  
兵隊上りの用心棒二三十名と連れ散取してゐる者もあるとのことである。

### ハ) 引揚者の感想と希望事項

一、現地共産軍より日系民主聯盟に苦しんだためこれに對する反感が強い

二、更に進んで民主聯盟の死刑共産黨打倒を叫ぶ者もある

三、強強移住や滿人の掠奪を恐れてゐる

四、政府の在滿邦人に対する誠意なきことを訴へてゐる

五、関東軍が最後まで居留民を保護しなかつたことを遺憾としてゐる

六、軍人の家族と邪魔物扱にしたのが残念で今後の生活の安定を望む

七、國方なき民族のあはれさと痛感し新日本建設に努力を怠ること誓ふ

八、共産軍は難民の面倒を見ぬが中央軍は必し紳士的でない

9. 在満会社の内地在住者は引揚社員の変更には努力せられたい。

10. 残留者の引揚に努力せられたい。特に大連地区の引揚を續けてゐる者が少ない。

11. 引揚後の就職生活保護越冬の心配等

練合すれば以上の様である。

(九) 其の他

1. 瓦房店地区からの應召者は約四百五十名でその中百五十名が終戦後瓦

房店に歸り虎林は行った二百五十名は僅か三名しか歸つてゐない。

2. 生計状態は他地区と変りないが労役に服すれば必ず五十円乃至百五十円

の賃金か貰へ一ヶ月の生活費は一人千五百円乃至二千五百円である。

生活は比較的樂である又日本人に對する満人の信頼が強く資本なく

して茶記販賣も容易に出來た。

三、衛生情況

(一) 概要

七月十九日佐世保出港以來博多港を基地として殆んど連続四十八時間出港制の下  
 に五回の蘆盧島より在滿邦人の引揚輸送を終了し、此の間船内清掃に當  
 つては挙船上下一体となり各甲板は勿論厠及炊爨所の隅に至るまで清掃に勵  
 め且船窓の眞鍮及食器食鉢に至るまで磨き立て七月の佐世保に於ける清掃  
 成績は百數十隻の特別輸送船中第二位を獲得し八月には博多に於て清掃成  
 績第一位を占め又九月には同港で第三位を占め夫々地方復員局長官より  
 表彰される次第である。

又近來の食料難は亦乗員に影響する事は大きく佐世保港に於ては生糧品に  
 左程の不足を感じなかつたが博多港では八月中旬の生糧品特に野菜の補給が  
 全く思ふ通りに行かず非常に少く又乗員の上陸出来る期間もわずかに四十八時  
 間制限されるため各個人の船外での野菜果物の攝取も亦充分出来なかつた。

(福岡特)

海軍

（福岡報）

八月中旬より同下旬に至る二十数名（全乗員の約四分一）が壞血性口内炎に罹り  
 齒齦出血及齒齦痛に悩んだ。この時は更に検査すればもっと多数の患者と発見  
 出来る状況であった。九月には及んで臺灣島から便乗者の糧食と共に野菜  
 類の積込が出来た様になり此種の患者は一度に茶を飲むのを止めた。因にこの  
 患者に對しては毎日百粒の「イタミ」として（ヒアスチルビン酸）の注射を行ったが之の效果  
 は殆んど見られるが、そして生糧品が入り止むすると全く見違へる様に出血  
 及齒齦痛は軽快した。又特異な事はこの八月に三名の急性惡性敗血症患者を出し  
 た事である。この三名は河川も手術を受け全快した。  
 斯る偏った食事と連續航海（六月下旬浦賀出港以来）による運動不足及  
 狭い艦内に押し込められた特異な生活は乗員の体カ及体の抵抗力の低下を  
 来した様に思はれる。後述する患者數を見ても明かであるが九月中旬に一名  
 の乗員は「急性咽喉炎」に罹患之が治療効果と現せず炎症は次第に奥に達  
 行し「急性肺炎」の症状を呈するに至り國立沈没病院に送院したのがあつた。

海軍

0390

此の患者は「痲院」に「粟粒結核」と診定せられ九月二十七日永眠したのである  
 ウィタミンCの不足は結核の増悪（シニア）を促進すると、小島を想起する時  
 に我々乗員は此處に長期の無休養連續航海による尊い犠牲を余儀  
 なく出す外なかつた譯である、又乗員は入港し便乗者と降すと上陸が許さ  
 らぬが半船づつの一回の上陸後には直うに出港するのである、そしてこの上陸も市街  
 と狭まらざるがけで全身痺の如く疲れ、陸上は宿舎と精々ぬの一夜は入袂、  
 船へ歸る次第である、乗員の脚力の低下は全く著しいものがある、  
 此に軍艦島に於ける邦人は軍隊と官憲と民衆とは精神的物質的の肉体的  
 な迫害と屈辱とを受けつゝ、盛夏の焼ける様な陽と湯と戦ひ皮膚を刺す様な  
 寒い秋の夜風は吹きさらせられながら無蓋貨車に乗るやうなものである、  
 邦人が船に乗込んで来る時は気分が緊張してゐるためか何となく歩いて来たものが船に  
 は落着き乗員の誠意にぬふ心盡しを受けると気分もやほらぐと共に病人が  
 續出した傾向にある、そして乗船中の選送中の食事は高菜が主食である、

大部分の者は下痢としてゐる。之に伴ひ、カタル性高熱も見受けられた。又盛夏の候には強烈な日光と煤煙とにより眼疾患が多数見られた。又身体の不潔から皮膚病も相當數見られた。之より腎炎を併発して顔面浮腫の認められたるものも數名發見した。一般に栄養状態は悪くなく、栄養失調と認められたる者が極めて少い。結核患者は各回共に相當數見られたのは生活環境の急激な変化によるものであらう。

(三)患者

1. 乗員の患者發生情況は別表一の様であるが八月より壞血性口内炎の極端な増加は前述の通りである。此の月の三名の急性蕁麻疹も偏つて食事から来る特は、ビタミンの不足による胃腸管系統の抵抗力低下のためと考えられる。性病は次第に増加する傾向が見られるが此は母港を離れて半年以上はるり乗員の家庭的な暖か味に飢え之を渴望する餘りに、紅燈の街に足を入れる様になつた心理を表すものであらう。九月以來遠慮島にて半體の



(編四納)

と積み且博多の生糧品補給も改善される様になるから十月の需診患者は目立つて減少してゐる

口、便來者の患者の主なものは別表ニに示す通りであるこの表には二三日で

全治した皮膚病等は算入して居らず上陸まで持越したものはかりである

然し第一回の結膜炎は非常に多かつたので算こゝを見が之は殆んど全部下船

まゝには治療してしまつた第二回便來者は孤兒部隊であつたので栄養状態

が他の回に比べると悪かつた 第五回には女児の分規あり又結核の子供が

一名死した

海軍

0393



別表二

病名	行動別	結核性疾患	胃腸病	栄養失調	蕁麻疹	脚気	毒麻疹	腎炎	マラリヤ	麻疹	中耳炎	外科疾患	結膜炎
病名 トウホム	I	12	1	3		2							17
	II	4	21			8			1		3		
	III	2	13				1	6				2	
	IV	6	17				1		2			4	4
	V	11	6								2	3	5
病名 トウホム	I	7						死					
	II							分					134
	III		1					亡					55
	IV			1				媿					30
	V							病					52
								病					31
								病					1
								病					1
								病					3

海

軍

(編四)

0395

四、所見

本艦は昨年九月二十六日結成を見て以来連続任務に従事すること茲に滿一ノ年  
 特に本年六月六日以後は母港を離れ休養とて長く連続行動して來て今や  
 臺灣島輸送の最後迄その任を全うすることを得た本年七月末以後九月  
 末頃まで生糧品の入手困難であつた爲、乗員の約四分の一以上懷血病に罹り  
 或は休養無と連續航海の爲、乗員の体力極度に低下し遂に九月二十七日  
 一名の尊き殉職と見るに至つた、又精密なる式三号ダイセル機関を以てして  
 整備期間を共へらるゝ行動した同上海第五次行動臺灣島第一次行動が  
 機関故障類を片舷航行を心したことも層々であつた加之送信機不具合  
 磁気羅針儀自差過大なる等各種の障礙に直面したかゝる都度之を  
 排除しつゝ小艦艇を以てして行動回数十有六回航程實に三萬里に達し  
 且つ國後神風政難作業に於ては横復長官に表彰せらるゝ横復の状況  
 検査に於ては第一位、清掃検査に於ては七月以降常に優秀なる成績を

(編同前)

海軍

その都度表彰せらる。若しそれ便乗者に對する誠意溢る、接待に至るは些か  
目ら誇りある處である。茲に修理整備の爲玉野に回航せんとするに當り  
拳船一ひ微かなから御奉公し來れる處と追懐し感慨を禁じ得ない  
復員輸送も最終段階に入った秋吾人は今次修理整備の後更に心元轉  
有終の美を濟し以て復員輸送の最後を飾らうと相期してゐる

(終)

(福岡納)

海軍

0397